

第 7 2 回国立民族学博物館運営会議議事要旨

日 時 令和 6 年 7 月 1 9 日（金） 1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 2 8

場 所 国立民族学博物館第 1 会議室

出席者

（館外） 岡田、木川、窪田、後藤、佐々木、富沢、中谷、水沢の各委員

（館内） 飯田、宇田川、島村、鈴木（紀）、丹羽、日高、福岡、山中の各委員

（陪席） 吉田館長、須原管理部長、一嶋総務課長、小野研究協力課長、馬場財務課長、
前原企画課長、中山情報課長

（事務局） 小埜総務課課長補佐、河野総務企画係長

議事に先立ち、福岡議長から、本会議は、国立民族学博物館運営会議規則第 5 条第 1 項及び第 3 項による成立要件を満たしている旨の説明があり、事務局から配付資料の確認があった。

議 事

1. 会議の運営について

（1）館長挨拶

吉田館長から、第 7 2 回国立民族学博物館運営会議（令和 6 年度第 2 回）開催にあたり、挨拶があった。

（2）前回議事要旨（案）の確認について

福岡議長から、資料 1 に基づき、第 7 1 回国立民族学博物館運営会議（令和 6 年 6 月 1 0 日開催）の議事要旨（案）の確認が行われ、原案どおり承認された。

2. 協議事項

（1）国立民族学博物館長の選考について

福岡議長から、資料 2 に基づき説明があり、第 7 1 回運営会議における推薦の発議を受けて、館長候補適任者推薦依頼を行った結果、2 名以上の委員から推薦のあった者について、館長候補適任者としていた旨の提案があり、審議の結果、承認された。

また、福岡議長から、館長候補者適任者名簿を作成するため、館長候補者調査専門委員会の設置について提案があり、宇田川委員を委員長に指名し、館外委員から、岡田委員、高倉委員、中谷委員、館内委員から、鈴木委員、山中委員の計 6 名が館長候補者調査専門委員会委員に選出された。

（2）令和 6 年度共同研究について

宇田川委員から、資料 3 に基づき、令和 6 年度共同研究申請新規採択課題一覧について説明があり、審議の結果、一般・館内 3 件、一般・公募 4 件及び若手 1 件の採択について承認された。

3. 報告事項

（1）共同利用委員会について

宇田川委員から、資料 4 に基づき、令和 6 年 6 月 1 3 日メール開催、7 月 1 1 日、1 2 日に開催された共同利用委員会について、報告があった。

(2) 国立民族学博物館の動きについて

1) 令和5年度自己点検報告書について

宇田川委員から、資料5に基づき、令和5年度自己点検報告書について、報告があった。
このことについて、館外委員から寄せられた主な意見等は次のとおりであった。

- ・計画、自己評価、中間評価と膨大であるので、評価の内容が果たして適切なのか、見直しが必要である。一方で、評価の上でどうなったかという点が重要で、対処したことを明示するのが良いと思う。
- 評価のその後に關しては、外部評価委員会の指摘事項を一覧にして、結果を記録している。運営会議委員からの意見も同様にし、課題の進捗を管理していきたい。
- ・人間文化研究機構のプロジェクトを民博の活動にどう盛り込むかを、検討してほしい。
グローバル地域研究推進事業はそれぞれに拠点があるが、民博が核となって進めているので、情報を集約して民博の活動として報告するのが良いと思う。
- 自己点検報告書は民博のプロジェクトについてであって、外部から見ると民博の活動はそれだけではない、というご意見の通りである。しかしながら、人間文化研究機構のプロジェクトは機構本部で評価をしているので、スリム化の観点から二重に評価することを避けている。外部評価委員会では、自己点検報告書と機構の評価を提示して全体を評価してもらうことにしている。民博全体をどのように報告するかは昨年度からの課題となっていたが、今年度は対応できなかったもので、来年度に向け検討したい。
- ・評価と外部への見せ方で、評価はスリム化されているべきだが、複数機関との連携も評価項目となっているので、民博がなければ成り立っていない事業等を目立たせる方法を整理すると良いと思う。
- 自己点検報告書に、少なくとも人間文化研究機構のプロジェクトの一覧を掲載する必要があると考えている。人間文化研究機構が機構全体の自己点検をとりまとめており、みんぱくファクトブックとあわせて運営会議で報告する。
- ・大学院教育において、昨年度までの二専攻が今年度は人類文化コースに統合されたことについて、プラス面・マイナス面、また学生の反応を知りたい。
- 講義の取り方は従前と変わっていないので、大きな変化はない。今後、何年かこの運用をし、問題が生じることがあれば、対処していきたい。
- ・シンポジウム等成果公開の機会が多くあるが、情報が伝わってこない、という話をきくことがあり、「広く伝える」ことについてどう考えているのかを知りたい。友の会会員だけではなく、学会や文化人類学に関心のある学生にどのように広報しているのか、今後の計画もあわせて知りたい。また、民博館内でイベント情報を十分周知すべきである。
- 広報は大きな課題と思っている。日本文化人類学会に対してはメーリングリスト(JASCA-INFO)で月に一度広報している。また、学会開催時は広報のためのブースを設置している。これらは従前からしていることでもあるので、より「広く伝える方法」を学会と連携して考えていきたい。イベント情報の館内周知のためにも、できるだけ早く広報したいと思う。
- ・重複になるが、情報の周知が不十分と思われる。探してアクセスしないと情報にたどり着けないので、もう一工夫してほしい。
- 博物館の広報としては、様々なSNSを使って、フォローしていただいている方に届く、というものになっている。研究に係る広報は、担当者が個々に意識し、関連学会等に広報するようにしている。
- ・自己点検報告書の評価は質的評価が中心だと思うが、各分野で評価の捉え方にずれがあるように思う。「大学院教育」は「A. 順調に進んでおり一定の注目事項がある」と

なっているが、一定の注目事項はどの事項を指すのか。

- 改組したことで、障がい学生支援の環境整備（通訳の手配、自動で文字起こしする機器の購入等）に取り組んだことである。
- ・数点、教えていただきたい。①「フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト」の成果を多言語化する、とはどの言語にすることか。②「日本人の太平洋収集に関する総合的アーカイブスの構築」の総合的とは何をさすのか。③「可搬型ビデオテーク」設置とは他大学から要望がある場合に対応していくものなのか。
- ①多言語化の言語選択の基準は、日本語・英語・現地で使われている言語の3つが基本である。②「総合的アーカイブス」とは、標本資料、写真資料、写真資料に付与されているテキストなど、さまざまなリソースをまとめることである。③「可搬型ビデオテーク」は三校にMac miniを貸し出し、モニターやスピーカーは受け入れ側で用意する、という運用をしている。実験的にスタートした事業であるので、貸し出しを拡大する予定はない。民博の膨大な映像資料をこれからどう公開するか、大学での授業利用を促進できるよう、映像を配信して提供する等、検討しているところである。
- ・共同研究を民博の中でどのように位置付け、評価してきたのかを知りたい。共同研究の制度が変化してきており、その結果どうなったか、成果が出たもの、出にくかったものについて、研究代表者のヒアリングをする等して、俯瞰的な検証が必要だと思う。また、共同研究がどのようなものかを、館外により積極的に知らせることも考えるべきである。
- 共同研究の制度を改正している最中で、例えば中間報告の実施は、各共同研究の代表者間の交流を深めることによって、関連する研究班の協働を進めて次の展開につなげることを目指としている。それとは別に、共同研究の内容を外部に向けて発信する方策についても考えていきたい。
- ・モビリティ（自動走行型電動車椅子）による一般体験走行実施について、どのような様相を呈して、体験者からどのような反応があって、今後どのように評価するのかを知りたい。また、展示物に対する危険性等の問題はおこっていないのかを知りたい。
- 一般体験走行では、来館者にモビリティに乗っていただき、アンケートを回答いただいた。視点が低くなることで見え方がおもしろくなる、また展示物をより集中してみることができた等、非常に高い満足度が得られた、と評価を受けた。モビリティにあると良い機能について質問しており、音声ガイドをつけてほしい、という意見が多く寄せられた。この8月から音声ガイドを作成する予定である。なお、安全に運用できるよう、動線の幅が十分に広いところを走行ルートとして設定しており、来館者が多くいる時間帯においても歩いている方との衝突がないことを確認した。
- ・モビリティをある程度の密度とレベルで用意できれば、広い民博だからこそ実装する意義があり、世界に向けての好事例になると思う。
- 世界で初めての試みである。座って展示を観覧できると、目線の高さにキャプションがあるので、歩いて観覧するよりはるかに多くの情報を得ることができる。

引き続き、各委員等から、資料6から10に基づき、以下の報告があった。

- ・山中委員から、入館者数等について
- ・福岡議長から、本館の活動状況について
- ・吉田館長から、受賞について
- ・宇田川委員から、学術交流協定の締結について
- ・須原管理部長から、令和5年度監事監査報告書について

2) 国立民族学博物館をとりまく動きについて

吉田館長から、資料 1 1 に基づき、次の事項について報告があった。

- ・ 創設 5 0 周年記念事業について
- ・ ミクロネシア連邦大統領ご一行の来訪について
- ・ 厨子甕、骨壺の返還について